

第3回吹田市健康増進広場整備方針等検討会 議事要旨

1 開催日時

平成27年10月26日（月）17:00～18:45

2 開催場所

吹田市役所 高層棟4階 特別会議室

3 出席者

出席者名簿のとおり

4 議題

- (1) 北大阪健康医療都市 健康増進広場整備方針（案）
- (2) その他

5 議事概要

- (1) 北大阪健康医療都市 健康増進広場整備方針（案）

資料1に基づき説明した。

- (2) 主な意見等

- ウォーキングコースでランニングは可能か。ポールを持ってノルディックウォーキング等をする人もいる。その際はどのコースを走ればいいのか。
⇒（事務局）コースの幅員は3mでウォーキングでは対面ですれ違えるコースだが、ランニング等になると、幅員3mでは狭いかもしいない。
- ウォーキングコースは走る人は使えないのか。
⇒（事務局）ウォーキングコースでは、走る人は想定していない。
- ウォーキングコースを開放したら、歩く人も走る人もいる。
- 健康増進広場は多世代を対象にしている。ウォーキングコースの利用対象者が歩く人を主に想定するのなら、高齢者だけが利用するイメージになってしまうのではないか。また、実際は走る人もいれば、ポールを持ってノルディックウォーキング等をする人もいる。
- ウォーキングコースの幅員3mは狭いのか。
⇒（事務局）ウォーキングコースとしては広いが、ランニングコースとして交互通行なら幅員3mだと狭いかもしいない。ランニングも含めてコースを設定するなら幅員を検討する必要がある。
- 走って疲れたら歩くこともあるのでは。
⇒（事務局）公園の中では、ぐるっとパークコースという全長500m

ほどの周遊コースを考えていて、距離も短いことからウォーキングがメインと考えている。

ランニングに適したコースに誘導するサインを検討したい。

- スロージョギングのように、実際はウォーキングとランニングを分けるのは難しい。幅員をもう少し確保することはできないのか。

⇒（事務局）幅員を広く確保すると、広場内のメディカル広場等が狭くなる恐れがあるので、3mで確保している。

公園北側道路部分は歩道と公園の園路で計6m程の空間があり、走る人はこの広い道を利用すると考える。

- 設定したコースが重なる部分については、幅員を広げた方が良いのではないか。今より1m程広げる余裕はあるのか。

⇒（事務局）若干広げることは可能。

- 健康増進広場内の幅員を3mから6mにするのではなく、使い分けができるように工夫してほしい。設定したコースが重なる部分は、歩く人等が往復ですれ違えるように幅員を広めに整備してほしい。

⇒（事務局）ゴムチップ舗装を予定するコースでは、リハビリをする方も歩く場合が考えられるので、幅員は検討する。

- コースのネーミングで初級、中級等の表現があるが、リハビリの過程の人、予防的に健康増進したい人等、どこに目線をおいて言葉を使っているのかによって内容は変わるのではないか。

- 健康増進広場において、どういう意図を持ってゾーン分けを検討したのか整備方針（案）に書いた方が良いのではないか。3つのゾーンをどう配置するかも書いてない。パーク施設を「学び」と表現して一番東に位置し、メディカル広場が一番西に位置することが整備方針（案）では読み取れない。

⇒（事務局）ゾーニングの話等は文字に起こしづらい。図面を整備方針（案）に包有するのもどうかと考える。

- 雨の日のコース等、駅まで巻き込んだコースでは一般の人歩いているので、ウォーキングが意識されるサインや歩く道のライン等含めてコースを検討すると一般の人にも認識してもらいやすい。

雨の日はウォーキングをする人が利用しやすいサイン、雰囲気づくりが大切。駅の方とも協力して進めてほしい。

⇒（事務局）雨の日のコースとして示している南北自由通路は普段も多くの人歩いている。6mの幅員だが、一般の人は広がって歩くこともあるので、明確にウォーキングコースとして明示が可能なのか、議論が必要。

現状では工夫すればこのようにコース設定できるのではないか、とい

うレベルで書いている。

- 雨天時でも歩ける南北自由通路等を含んだコースは一般の人も歩いているので、歩く道のライン等含めてコースが一般の人に認識されるサインを検討する必要がある。

また、普段は公園まで来ることがない人が生活圏の中で、ルートがつかない公園があることを知ってもらうきっかけになるので、駅、道路を巻き込んだサインづくりをしてほしい。

コース名を付けるだけでなく、健康運動施設への動線を確保した上で、雨の日は思いやりを持って譲り合う等の雰囲気づくりが必要なので、駅と市が協力して進めてほしい。

健康増進広場以外のエリアとつながるコースも同様に、コース名をつけるだけでなく、サインによりランニングの人は外周を回るよう誘導して、ウォーキングとランニングはゆるやかに譲り合うこと等を意識付けた方がよい。

6 m幅員の空間と雨の日コースのところは検討してほしい。ターゲットは誰かを考えると幅広い世代をとらえることが市としては必要。

- 雨の日だけでなく、普段から「ここを歩くことが良いこと」と思ってもらえるよう、日々の生活から健康意識が高まるサインが必要と思う。

まち全体が健都であって、そこで働く人も健都で健康意識が高まるという発想は良いと思う。

駅から健康増進広場へのアプローチは距離もあるので、駅中サインは健康増進広場の存在を知らせるいいアイデアになるのではないかな。

- 健康運動ゾーンへは病院からのアプローチが長い。リハビリのためにここまで来るには価値が作れるのかどうか。

健康遊具等を設置する場所に、日々の生活の中で、来てもらうにはどうしたらいいのかを検討した方がよい。

健康遊具等は使い方が分からないという意見もある。行政側が良いと思って設置しても、利用者が継続的に使わないこともある。

健康遊具等の使い方を利用者に分かってもらえるように、メリットは何かをサインの表示だけでなく、定期的なセミナーで行うことも必要ではないかな。

⇒（事務局）公園内の掲示サインだけでなく、2つの病院内等でお知らせを掲示してもらうこと等は良いかと思う。

- メディカル広場という名がついているので、医学的なエビデンスがあることが強みになる。ここは他の公園と違うと思ってもらえるような、エビデンスが見えるアイデアがあるとよい。
- 整備方針（案）の中で「指定管理者制度の導入」とあるが、他にも様々

な手法があるのではないか。

また、同（案）の中で「ICT※やソフトウェアを取り入れて」、「イベント等の企画や開催」とあるが、指定管理者制度においては、有料のいろんなイベント等も含めて、どこまで民間の門戸を広げるのかが大事になる。

【※Information and Communication Technology の略。情報通信技術。】

予算の面からも持続性という意味で、行政が事業運営をし続けることは大変なのではないか。

- 質の高い管理を持続的に行うことを目指す上で指定管理者制度がふさわしいという判断なのか。「指定管理者制度の導入を目指す」として、方法は一つだと言い切っているように見える。

⇒（事務局）現在、吹田市の公園で指定管理しているところはない。健康増進広場は新しいまちの中の公園なので、今までにない取組を市としてやっていける地域と考えている。

指定管理の場合でも、利用料金制についてどこまで取り込めるか。指定管理が可能な事業者と集客をどれだけ見込めるか等含めて採算性についてサウンディングを行い、市からの委託料と有料事業とのバランスを考えた上で指定管理の検討を進める。

指定管理者制度の他にも様々な方法がある。整備方針（案）の中で書いてあることをどう実現するかによって指定管理者制度がいいのか、その他の制度がいいのか、様々な視点から研究する必要がある。

整備方針（案）の「指定管理者制度の導入を目指します」という文言は、指定管理者制度だけにとらわれず、様々なことを検討する視点も含まれている。

- 「質の高い管理を持続的に行う」ことを考えたときに、自治体が予算を獲得し、行政として継続してその仕事に取り組めるメリットはある。また、行政の公平性、手続き、責任感、経験等の点は高く評価したい。

イベントの開催は休日等に展開される。ICTの利用では、情報システムの調達、運用、評価も含めて、大部分を外部に依存することになるかもしれない。カフェ等、人々が楽しめる施設の運営等では民間が高い能力を持っている。病院の関係者も含めて、学術の関係者は学術領域に関しては長けている。ボランティアについても同様。

質の高い管理を持続的に行うためには、前段階で各ステイクホルダーである担い手が連携して協力することが必要。その前段階を受けて、指定管理者制度を検討するのであれば良いと思うが、前段階が抜けているのではないか。

- ICTは個人情報が発生する。また、ソフト及びハードウェアはバージ

ョンアップが必ずあり、その都度お金がかかる。民間企業がこの公園に価値があると思えば、by〇〇と企業名称を表示する等の方法で、ソフト及びハードウェアを無償で提供することもあり、バージョンアップ等を企業側でやってもらえる。そういう企業と進めることも考えられるのではないか。

観光分野ではDMO※という手法がある。DMOでは国や地方自治体を含めて観光産業に関わる地域の幅広い方々と一緒に事業を進めるマネジメント機能を持つ。DMOまでいかなくても指定管理者に全ておまかせにならないように、施設の中に入る様々な業者等も参加し、調整をするための話し合いの場が必要ではないか。

【※Destination Marketing/Management Organization の略で、地域全体の観光マネジメントを一本化する、着地型観光のプラットフォーム組織を指す。】

- 指定管理を円滑に進めるには行政能力を高める必要がある。例えば、指定管理期間終了後に評価をして見直しを図り、さらに魅力をつけるために行政だけでなく、各関係者が協議するような場が必要ではないか。
⇒（事務局）指定管理の手法についてはさらに研究する必要がある。指定管理者と吹田市だけの関係性だけではなく、エリアマネジメントとしてまち全体を面的に運営する機運を盛り上げて環境づくりをすることも必要と考えている。
- 指定管理を実施する公園で、市民の声や活動する方の声を反映して、指定管理開始から5年経って良くなっている事例は参考になるので調べてみると良いのではないか。
- 摂津市と連携して取り組むという言葉が今回の整備方針（案）にはない。「平成30年の本格的な「街びらき」に向けて、健都を構成する吹田市と摂津市の両者の健康づくりの連携を発展させ、例えば、その3kmにおよぶ緑の遊歩道を健康増進広場から始まるウォーキングの場として積極的に活用する事業を開発する。」もしくは「遊歩道を使った健康ウォークや公園を活用した健康体操などの開催などを通し健都での吹田市、摂津市の健康づくりの協調取組みを展開する」等、何か一言入れてほしい。
健康増進広場は北摂の方のみならず、様々な方が全国から訪れるような、日本を代表する健康増進の場になってほしい。そういうメッセージを出した方が良いのではないか。
- 整備方針（案）に「健康づくりは継続的に行うことが重要」、「ICTやソフトウェアを取り入れることも視野に入れ」とあるが、実際に企業が入らなければ、ICTを取り入れることもできない。何もないウォーキングコースになれば、ワクワク感が全くないコースになってしまう。

運動を継続するには、見える化の仕組みが大切。そのためにICTやソフトを整備することが必要。

高齢者は運動機能がよくなる人は少ない。ゆるやかに落ちる人。運動しなければ極端に落ちる人。横ばいであれば良い等、それらのことが分かるためのモニタリングは大切。

継続するために「視野に入れ」ではなくて必ず企業に入ってもらって、ICT等を入れる必要がある。

健康になることによって御褒美をもらえる等の仕組みを作る。例えば、企業と組んで健康になることが自分にプラスになる方が良いのではないか。

企業を入れて、集客は企業が考えるということ进行全面的に出す方が良いのではないか。

先にコースがあって、どこかの企業が入れば何かできる等、消極的な感じがする。ワクワク感があるものができるのか。

⇒（事務局）ICTやソフトウェアの整備に関しては、どこまで費用を投資するかと相関すると考えている。

吹田市で実施している様々な事業を見ても、ICTは年齢によって馴染み度が大きく違っており、スマホを使って健康づくりができるのは我々がとっているデータでは40代から50代が限界で、60代はほとんどスマホを使わずに、万歩計を使っている。何年か経つと解消する部分もあるが解消しない部分もある。

結果の見える化は必ずやる。その手法がICTなのかやり方は検討する。いただいた御指摘も含めて検討したい。

- 10数年たてばスマホは当然60歳以上の人も使うようになる。ICウォーク※を先行して行った複数の自治体は今の高齢者を対象にしたため、高齢者がICTを使いこなせないことと、お土産がないことで、利用者が増えていない。先行した自治体は維持するのに大変苦勞しているようだ。

【※ICカードを持ち、コースに設置されたチェックポイントでこのカードをかざすことで簡単に歩行管理ができ、距離・時間を管理できる。インターネットの専用ページで管理した情報を確認できる歩行管理システム。】

ICTを健康増進に使うことに特化してこの地域で考えると投資対効果が数年間は見込めない可能性があるが、ICTを別の用途にも使える。例えば、Wi-Fi環境を整備して通信を自由に使える空間にすると他の目的にも使える。

健康増進広場でWi-Fiが使うことができれば、指定管理者にICTを

使った健康増進を継続する取組の検討をお願いした場合に提案がしやすいのではないかと。

⇒（事務局）指定管理の手法にもよるが、例えば、パーク施設に Wi-Fi 環境を整備する等、検討はできるのではないかと。

- 運動したときに血圧や脈拍等を測定する機器等は企業も検討しており、Wi-Fi で通信するのがメインなので、環境だけは先に整備して対応できるようにしておいた方が良いのではないかと。企業は具体的な測定データに対してコメントができるような仕組みを考えているようだ。

⇒（事務局）Wi-Fi は様々なことに利用できると考えている。病院の待ち時間等を待合室で待たずにスマホ等で確認できる仕組みに利用できないかと。商業施設で買い物しながら、お茶を飲みながら、公園まで足を運んでみどりを眺めながら、待つことができる等。

Wi-Fi 設備の整備に関しては吹田市だけでなく、2 病院、商業施設等も含めて、各事業者間で協力して投資ができれば、まちづくりに資する Wi-Fi 設備が整備できるのではないかと。これから研究して各事業者と一緒に検討したい。

- メディカル広場の「リハビリスペース」に設置する健康遊具等と「メディカルウォーキングコース」に設置する「ストレッチやリハビリなど、多種多様な健康遊具・リハビリ器具等」は、それぞれ違うものと考えているのか。

⇒（事務局）それぞれ違うものになると考える。どういったものがそれぞれの場所に適するのかな、御意見をいただきたい。

コースのアップダウンである傾斜勾配、体力差による距離設定、健康遊具等の設置場所やゾーンごとのコース取り方法等、幾つかプランを立てて御相談させていただこうと考えている。

- 場所等の名称で、リハビリという言葉を使うと、リハビリの人しか使わないイメージになる。ポジティブなイメージの言葉にする等、検討した方がよいのではないかと。

- ICT 等に関して、企業等により導入されると、継続する部分も企業等におまかせすることになるのかな。我々メディカルの立場で継続する部分に関わりを持つ方がおもしろい議論ができるのではないかと。

⇒（事務局）ICT は、既成の仕組にするか、新しい仕組を構築するかを選択になる。健康増進広場に必要なシステムを一から構築すると多大なコストがかかる。広場に馴染む既存のシステムを導入する方が実現しやすい。その際にどういうシステムを導入するか検討するのは我々であり、また御相談させていただくことになる。

- 病院関係の方々には、健康増進広場の指定管理者に、例えば、健康ウォー

クや健康体操、リハビリも含めた様々な提案をしたときに、どのような手続きで進めるのかイメージできないのではないかな。

- どのようなものを作るのか、我々のイメージと企業側のイメージが同じなのか。健康・医療の事業に参入しようとする企業等が、現場を知らない例は数多くある。企業等が入り、事業の継続を考えるには、健康・医療の現場を知らなければ、ニーズに合ったものがないのではないかな。
⇒（事務局）通常はソフト部分を先に検討するのだが、健康増進広場に関しては、設計の都合上、ソフトに関する自由度を残しながらハード整備を進めている。

整備方針（案）ではウォーキングコース以外は自由度を残している。自由度を残している部分はハード設計の中で決めるが、あまり一つの用途に特定しすぎず、ICTを含めてどのようなソフトがハードの上に乗せていけるのかを検討することになるのかな。

- ワクワク感はハード部分ではなくソフト部分にある。人に健康増進広場に来たいと思わせるのはソフト部分だと考える。

先々、健康増進広場が良いものになるように、ハード整備後の議論に力を入れるのであれば、そこに意見を言わせてほしい。

⇒（事務局）検討会はハード部分だけでなく、雨の日の活用方法や主体的に取り組む方法等ソフト部分の意見をいただいて、実現可能な範囲でハード部分を検討し、整備方針（案）として提案している。

- 健康増進広場が整備されて完成ではなく、そこから利活用を検討し、ソフト面を充実させ、バージョンアップをして進めると理解している。
- 企業に指定管理してもらうのであれば、いかに「見える化」を進めるかな等、ソフト部分で押さえる必要があることを整備方針（案）で明確にしておかなければソフト部分が見えてこないのではないかな。

⇒（事務局）指定管理を実施するのであれば、指定管理事業者の募集要項の中で要件を付すことになる。ICTの仕組み等、様々な要件をつけて、提案してもらい、競争させて事業者を決めることになる。

- ウォーキングコース幅員3mについて、車いすを使用する人や松葉づえを使用する人に来てもらうことを考えると、ある程度余裕があった方がよい。歩く人にとってもここへ気軽に来てもらうには、安全に安心して歩ける道幅やシステムを作り、安心感を確保する必要があるのではないかな。

⇒（事務局）幅員3mについては、2者がすれ違う交互ウォーキングでは十分に広いと考える。ランニングを含めてどれだけの幅員が必要なのか、全体のバランスを見て検討する。

- 屋外で音楽を使う場合は必ず電源が必要になるので、広場内の配線等に

についても検討しておいてほしい。運動スポーツをする際に、音や映像等を使うことで変わるので、Wi-Fi 含めて基本的な配線は重要と考える。

- 整備方針（案）の「エリアマネジメントの連携も見据えつつ」という文言について、エリアマネジメントに取り組むメッセージは大事だが、CCRCとつなげて文言が出るのは難しいのではないか。

CCRCを出すのであれば生涯活躍をするための学びであるとか交流の場であるとか、住まいの問題等様々な議論が必要。生涯活躍のまちまではないが、健都版CCRCが出てくるのはなぜなのか。

⇒（事務局）CCRCはどこの自治体でも戦略を定めているが、当市でも健都がCCRCの具体化の場として位置づける方向で検討している。

- CCRCに関しては『健康増進広場の運営にあたり、公的セクターと市民及び民間事業者、および健康：医療科学等の学術団体等の連携によって、先駆的かつ持続的な健康づくりを推進していく。』と整備方針（案）に入れておけば、連携の一つの細工としてCCRCも出てくるかなど。

CCRCは国の施策の中で、それなりの検討をして出てきたと思うが、市民からすると唐突な話に感じてしまう。唐突感のないように大事なプロジェクトとして進めてほしい。

⇒（事務局）総合戦略との兼ね合いもあるので大事にしつつ、文言の選び方は検討する。

（3）今後の予定

本日の議論を踏まえて修正し、最終的な案については、議会、市民の方々の意見を踏まえて市として決定する。その際には委員各位にもお知らせする。ありがとうございました。

第3回 吹田市健康増進広場整備方針等検討会出席者名簿

(敬称略)

	区分	専門分野	選出団体	氏名
1	医療関係者 (医師)	循環器疫学	国立循環器病研究センター	東山 綾
2	医療関係者 (医師)	内科(呼吸器・アレルギー・腫瘍グループ)	市立吹田市民病院	辻 文生
3	学識経験者	環境マネジメント	関西大学	盛岡 通
4	学識経験者	スポーツマネジメント	龍谷大学	松永 敬子
5	有識者	スポーツビジネス	スポーツコミッション関西	森岡 慎司
6	有識者	マーケティング	日本マーケティング学会	亥角 稔久

事務局

吹田市 都市整備部 吹田操車場跡地まちづくり室

特命統括監	米丸 聡
都市整備部担当理事	乾 詮
参事	清水 康司
参事	平野 和男
主幹	清水 桐郎
主幹	宮崎 直子
主査	木下 有貴
主任	田端 政伸

株式会社 アスコ (健康増進広場詳細設計業務受注業者)

主任	田中 幸治
----	-------